

I 事業の概要（地域の実情含む）

- (1) 地域の現状や過去の災害について知り、想定される災害についての理解を深めるとともに、安全な避難方法について理解を深め、安全な行動をとるための判断力を高める。
- (2) 身近に起こりうる災害を想定した防災標語の作成や非常時の行動について家庭で確認する活動を通して、児童や家庭の防災意識を高め、地域の安全のために役立つとする児童の育成を目指す。

- (3) 保護者と連携した活動
ア 防災訓練（伊保内小学校防災の日）
（ア）親子防災教室 204名【9月6日】
テーマ「大雨のときの命の守り方」
～平成28年台風10号による岩泉町の様子から～
講師 岩泉町観光ガイド協会 理事 坂本 昇 氏

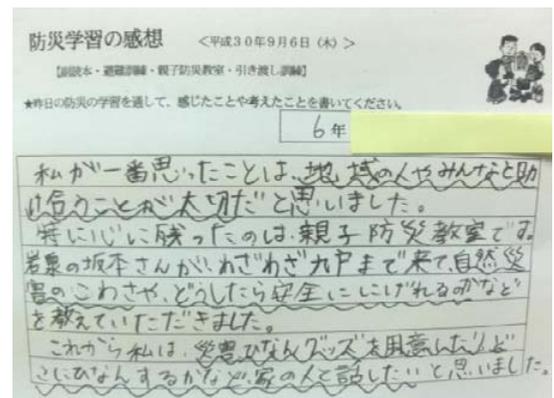
平成28年台風10号による岩泉町の豪雨災害の状況について、親子で講師の方のお話を聞くことにより、自分の命を守るための適切な対応を考える機会とする。また、避難所での過ごし方を考えるとともに、親子で非常食の試食体験をする。

II 取組の概要

- (1) 避難訓練（地震） 107名【4月11日】
災害時、緊急時における避難経路や避難場所を確認し、消防職員の指導の下、訓練を実施。



- (2) 総合的な学習の時間における活動
ア 5年生：折爪岳森林学習 20名【6月7日】
森林保全による防災の働きを知る。
イ 3年生：学校林散策 21名【6月13日】
学校林での自然体験学習を通して、森の恵みや自然のダムについて興味関心をもたせる。
ウ 5年生：水生生物調査 19名【8月30日】
学区内を流れる瀬月内川に棲む生物の調査を通して、河川の様子や大雨の際の災害について考えさせる。
エ 4年生：野田村訪問 28名【9月29日】
東日本大震災大津波被災地の野田村の方々と交流活動や、見学学習を通して、被災地について理解を深め、被災者に寄り添う気持ちをもつとともに、震災の教訓を忘れないようにする。



- (イ) 緊急時児童引き渡し訓練
九戸村に「大雨洪水警報」が発令されると想定し、「緊急時引き渡しカード」をもとにして、保護者（代理人）に児童を引き渡す方法の確認と、緊急メールの有効性を確認する。



イ 学校林植樹会 53名【9月29日】
4年生のPTA活動において、学校林での親子植樹体験を通して、森林や地域とのつながりを大切にしようとする気持ちをもたせる。

ウ 親子防災標語 206名【11月下旬】
本校教育振興運動実践区の活動の一環として、親子、兄弟姉妹で防災に関連した標語を考える活動を通して、各家庭の防災意識を高める。その後、入選した作品をポスター様式にして、家庭及び地域に配付する。



- (2) 親子防災標語の取組では、保護者も含め、家族の絆や地域の一員としての自覚、震災を風化させないという内容のものが多く、学校と家庭が連携しながら児童を守り、育てていこうという意識の醸成につながっているのではないかと考える。
- (3) 学校評価アンケート（児童・保護者）では、いわての復興教育の目指す「かかわる（地域づくり）」に関連した地域学習の取組によって、自然の大切さや郷土のよさを感じているという回答が9割を超えていることから、児童及び保護者の地域を大切にするという意識が高まっているものととらえる。



2 課題

- (1) 本校では避難訓練を年間3回計画しているが、児童の実態や取組状況に基づいて、PDCAサイクルで危機管理マニュアルを見直していくこと。
- (2) 総合的な学習の時間の取組を通して、児童の防災意識の啓発を図ってきたが、指導内容が、調査・体験・制作・交流と多岐に渡る場面があることから、単元のねらいを見直ししたり、指導計画を再構築したりすること。
- (3) 親子防災教室において、講演会や非常食試食体験、緊急時児童引き渡し訓練を行ったが、内容と進め方を吟味しながら、関係機関と連携して継続的に取り組んでいくこと。
- (4) 九戸村総合防災訓練において、小中学校で連携した活動を計画していたが、台風のために中止となった。今後も継続して小中連携による防災訓練等を計画することにより、児童の防災意識が高まっていくものと考え。また、緊急時引き渡し訓練を小中合同で実施したり、それぞれの避難訓練を職員間で視察したりし、効果的に防災訓練を進めていくこと。

Ⅲ 取組の成果と課題

1 成果

- (1) 学校での避難訓練及び実地見学、保護者と連携した緊急時児童引き渡し訓練と標語の作成、専門家からの講演・講話等によって、少しずつではあるが発達段階に応じて、児童の防災意識が高まってきている。特に、9月に行った防災訓練後の児童のアンケートから、「大雨の時は川などに近づかない」「自分の身は自分で守る」「災害時の準備や心構えをきちんとする」「地域の人達と協力して行動する」等の記述が多く、いざというときの自然災害に対応できる児童の育成につながった。